
放物線の法線に関するシンプルで興味深い問題

2025/07/29

藤井 佑成 *1

問題

問 1 放物線 $P: y = x^2$ の法線弦 (法線のうち放物線の内部にある部分) を l とする。

- (1) l の長さの最小値を求めよ。
- (2) P と l が囲む部分の面積の最小値を求めよ。
- (3) P と l が囲む部分を l を軸として 1 回転するとき, 通過する部分の体積の最小値を求めよ。

問 2 点 $Q(a, b)$ を通る 放物線 $P: y = x^2$ への法線を 3 本引き, それらの足を A, B, C とおく。

- (1) Q の存在範囲を図示せよ。
- (2) 4 点 A, B, C, O は同一円周上にあることを示せ。

*1 千葉県立千葉高等学校 3 年.

解法

問 1

(1) P 上の点 $A(t, t^2)$ における接ベクトルは $(1, 2t)$ なので、 A における法線の方程式は、

$$(x - t, y - t^2) \cdot (1, 2t) = 0$$

$$\Leftrightarrow x + 2ty - 2t^3 - t = 0$$

これと P のもう 1 つの交点を B とおくと、 $t = 0$ のとき B は存在しないので $t \neq 0$ であり、上式に $y = x^2$ を代入して、

$$2tx^2 + x - 2t^3 - t = 0$$

$$\Leftrightarrow (x - t)(2tx + 2t^2 + 1) = 0$$

$$\Leftrightarrow x = t, -t - \frac{1}{2t} \quad (\because t \neq 0)$$

より、 $B\left(-t - \frac{1}{2t}, t^2 + 1 + \frac{1}{4t^2}\right)$ となる。よって、

$$\begin{aligned} AB^2 &= \left\{ \left(-t - \frac{1}{2t}\right) - t \right\}^2 + \left\{ \left(t^2 + 1 + \frac{1}{4t^2}\right) - t^2 \right\}^2 \\ &= 4t^2 + \frac{3}{4t^2} + \frac{1}{16t^4} + 3 \end{aligned}$$

ここで $T = t^2$ とおくと $t \neq 0$ より $T > 0$ であり、

$$AB^2 = 4T + \frac{3}{4T} + \frac{1}{16T^2} + 3$$

これを $f(T)$ とおくと、

$$f'(T) = 4 - \frac{3}{4T^2} - \frac{1}{8T^3} = \frac{1}{8T^3}(2T - 1)(4T - 1)^2$$

よって、 $T > 0$ における $f(T)$ の増減表は以下の通り。

T	(0)	...	$\frac{1}{4}$...	$\frac{1}{2}$...
$f'(T)$		-	0	-	0	+
$f(T)$		\searrow		\searrow		\nearrow

よって、 $T = \frac{1}{2}$ のとき $f(T)$ は最小値 $\frac{27}{4}$ をとる。したがって、 l の長さの最小値は $\frac{3\sqrt{3}}{2}$

(2) (1) より $t \neq 0$ であり、対称性より $t > 0$ において考えれば十分。よって、 P と l が囲む部分の面積は、

$$\begin{aligned} & - \int_{-t-\frac{1}{2t}}^t \left(x + t + \frac{1}{2t}\right)(x - t) dx \\ &= \frac{\left\{ t - \left(-t - \frac{1}{2t}\right) \right\}^3}{6} \quad (\because 1/6 \text{ 公式}) \\ &= \frac{\left(2t + \frac{1}{2t}\right)^3}{6} \\ &\geq \frac{\left(2\sqrt{2t \cdot \frac{1}{2t}}\right)^3}{6} = \frac{4}{3} \quad (\because \text{相加平均} \cdot \text{相乗平均の関係}) \end{aligned}$$

よって、求める最小値は $t = \frac{1}{2}$ のとき $\frac{4}{3}$

(3) (2) と同様に $t > 0$ において考えれば十分。 P 上の点 $C(u, u^2)$ $\left(-t - \frac{1}{2t} \leq u \leq t\right)$ と l の距離は、点と直線の距離の公式より、 $\frac{u + 2tu^2 - 2t^3 - t}{\sqrt{1 + 4t^2}}$ である。よって、法線の傾きは $-\frac{1}{2t}$ であることより、 P と l が囲む部分のうち、 $u \leq x \leq u + \Delta u$ の部分が回転して通過する体積を、

高さ $\Delta u \cdot \sqrt{1 + \frac{1}{4t^2}}$ 、半径 $\frac{u + 2tu^2 - 2t^3 - t}{\sqrt{1 + 4t^2}}$ の円柱の体積に近似できる。したがって、通過する体積は、

$$\begin{aligned} & \int_{-t-\frac{1}{2t}}^t \pi \left(\frac{u + 2tu^2 - 2t^3 - t}{\sqrt{1 + 4t^2}} \right)^2 \cdot \sqrt{1 + \frac{1}{4t^2}} \cdot du \\ &= \frac{\pi}{2t\sqrt{1 + 4t^2}} \int_{-t-\frac{1}{2t}}^t (u + 2tu^2 - 2t^3 - t)^2 du \\ &= \frac{\pi}{2t\sqrt{1 + 4t^2}} \int_{-t-\frac{1}{2t}}^t (u - t)^2 (2tu + 2t^2 + 1)^2 du \\ &= \frac{2\pi t}{\sqrt{1 + 4t^2}} \int_{-t-\frac{1}{2t}}^t (u - t)^2 \left(u + t + \frac{1}{2t}\right)^2 du \\ &= \frac{2\pi t}{\sqrt{1 + 4t^2}} \cdot \frac{1}{30} \left\{ t - \left(-t - \frac{1}{2t}\right) \right\}^5 \quad (\because 1/30 \text{ 公式}) \\ &= \frac{\pi t}{15\sqrt{1 + 4t^2}} \cdot \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^5 \\ &= \frac{\pi}{15\sqrt{2}} \cdot t^{\frac{1}{2}} \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^{\frac{9}{2}} \\ &= \frac{\pi}{15\sqrt{2}} \sqrt{t} \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^9 \end{aligned}$$

ここで、 $g(t) = t \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^9$ とおき、この最小値を求める。積の微分法を用いて微分すると、

$$\begin{aligned} g'(t) &= \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^9 + t \cdot 9 \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^8 \cdot \left(2 - \frac{1}{2t^2}\right) \\ &= \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^8 \left(20t - \frac{4}{t}\right) \\ &= \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^8 \frac{4}{t} (5t^2 - 1) \end{aligned}$$

よって、 $t > 0$ における $g(t)$ の増減表は以下の通り。

t	(0)	...	$\frac{1}{\sqrt{5}}$...
$g'(t)$		-	0	+
$g(t)$		\searrow		\nearrow

したがって、 $t = \frac{1}{\sqrt{5}}$ のとき $g(t)$ は最小値

$$\begin{aligned} & \frac{1}{\sqrt{5}} \left(\frac{2}{\sqrt{5}} + \frac{\sqrt{5}}{2} \right)^9 = \frac{1}{\sqrt{5}} \left(\frac{9}{2\sqrt{5}} \right)^9 = \frac{9^9}{2^9 5^5} \\ & \text{をとる。よって、通過する体積の最小値は、} \\ & \frac{\pi}{15\sqrt{2}} \sqrt{\frac{9^9}{2^9 5^5}} = \frac{6561\sqrt{5}}{20000} \pi \end{aligned}$$

問2

(1) 接点を (t, t^2) とおくと、この点における接ベクトルは $(1, 2t)$ なので、法線の方程式は、

$$(x - t, y - t^2) \cdot (1, 2t) = 0$$

$$\Leftrightarrow x + 2ty - 2t^3 - t = 0$$

これが $Q(a, b)$ を通るとき、代入して、

$$-2t^3 + (2b - 1)t + a = 0$$

この左辺を $f(t)$ とおく。放物線 P において接点と法線は 一対一に対応するから、 t の 3 次方程式 $f(t) = 0$ が異なる 3 実数解を持つ条件を考えればよい。

$$\begin{aligned} f'(t) &= -6t^2 + 2b - 1 \\ &= -6 \left(t + \sqrt{\frac{2b-1}{6}} \right) \left(t - \sqrt{\frac{2b-1}{6}} \right) \end{aligned}$$

より、 $b \geq \frac{1}{2}$ のとき $f(t)$ の増減表は以下の通り。

t	\cdots	$-\sqrt{\frac{2b-1}{6}}$	\cdots	$\sqrt{\frac{2b-1}{6}}$	\cdots
$f'(t)$	$+$	0	$-$	0	$+$
$f(t)$	\nearrow		\searrow		\nearrow

よって、 $f(t) = 0$ が異なる 3 実数解を持つ条件は、

$$f\left(-\sqrt{\frac{2b-1}{6}}\right) f\left(\sqrt{\frac{2b-1}{6}}\right) < 0$$

$$\Leftrightarrow \left\{ a - \frac{\sqrt{6}}{9}(2b-1)^{\frac{3}{2}} \right\} \cdot \left\{ a + \frac{\sqrt{6}}{9}(2b-1)^{\frac{3}{2}} \right\} < 0$$

$$\Leftrightarrow a^2 - \frac{2}{27}(2b-1)^3 < 0$$

$$\Leftrightarrow (2b-1)^3 > \frac{27}{2}a^2$$

(右辺) ≥ 0 なので (左辺) > 0 だから、両辺 $\frac{1}{3}$ 乗して、

$$2b-1 > \frac{3}{\sqrt[3]{2}}a^{\frac{2}{3}}$$

$$\Leftrightarrow b > \frac{3}{\sqrt[3]{16}}a^{\frac{2}{3}} + \frac{1}{2}$$

したがって、 $g(x) = \frac{3}{\sqrt[3]{16}}x^{\frac{2}{3}} + \frac{1}{2}$ とすると、 Q の存在範囲は $y = g(x)$ のグラフよりも上の部分。 $g(x) = g(-x)$ なので $g(x)$ は偶関数だから、 $x > 0$ において考えると、

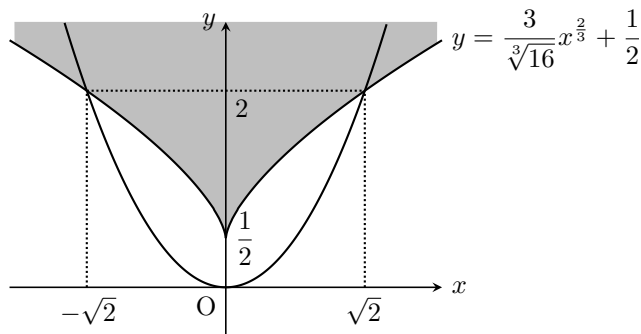
$$g'(x) = \frac{2}{\sqrt[3]{16}}x^{-\frac{1}{3}} > 0$$

$$g''(x) = -\frac{2}{3\sqrt[3]{16}}x^{-\frac{4}{3}} < 0$$

よって、 $g(x)$ の増減表は以下の通りで、 $b \geq \frac{1}{2}$ をみたらす。

x	0	\cdots	∞
$g'(x)$		$+$	
$g''(x)$		$-$	
$g(x)$	$\frac{1}{2}$	\curvearrowright	∞

以上より、 Q の存在範囲は下図斜線部。(境界を含まない)



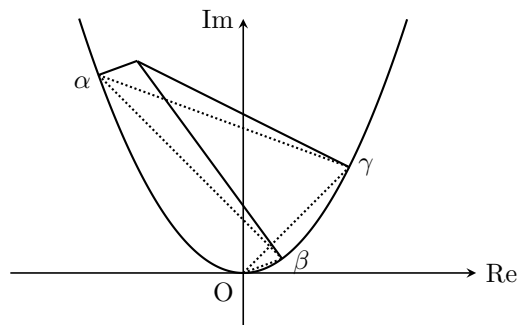
考察 曲線 $y = g(x)$ は P の縮閉線である。

(2) A, B, C の x 座標をそれぞれ t_1, t_2, t_3 ($t_1 < t_2 < t_3$) としてもよい。このとき、 t_1, t_2, t_3 は $f(t) = 0$ の 3 解であるから、解と係数の関係より、

$$t_1 + t_2 + t_3 = 0 \quad \cdots \cdots \cdots ※$$

ここで、 O を原点とする複素数平面において、 A, B, C に対応する複素数をそれぞれ α, β, γ とすると、

$$\alpha = t_1 + t_1^2 i, \quad \beta = t_2 + t_2^2 i, \quad \gamma = t_3 + t_3^2 i$$



$\beta = 0$ または $\gamma = 0$ のとき、 A, B, C, O は同一円周上にあるから、 $\beta \neq 0$ かつ $\gamma \neq 0$ のときについて示す。

$$z_1 = \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}, \quad z_2 = \frac{\gamma - 0}{\beta - 0} = \frac{\gamma}{\beta} \quad \text{とおくと、} z_2 \neq 0 \text{ であり、}$$

$$z_1 = \frac{(t_3 + t_3^2 i) - (t_1 + t_1^2 i)}{(t_2 + t_2^2 i) - (t_1 + t_1^2 i)} = \frac{(t_3 - t_1)\{1 + (t_3 + t_1)i\}}{(t_2 - t_1)\{1 + (t_2 + t_1)i\}}$$

$$z_2 = \frac{t_3 + t_3^2 i}{t_2 + t_2^2 i}$$

※より、

$$z_1 = \frac{(t_3 - t_1)(1 - t_2 i)}{(t_2 - t_1)(1 - t_3 i)}$$

したがって、 $z_2 \neq 0$ より、

$$\begin{aligned} \frac{z_1}{z_2} &= \frac{(t_3 - t_1)(1 - t_2 i)(t_2 + t_2^2 i)}{(t_2 - t_1)(1 - t_3 i)(t_3 + t_3^2 i)} \\ &= \frac{(t_3 - t_1)(t_2 + t_2^3)}{(t_2 - t_1)(t_3 + t_3^3)} \in \mathbb{R} \end{aligned}$$

よって、上図より、

$$\arg z_1 = \arg z_2 \Leftrightarrow \arg \left(\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} \right) = \arg \left(\frac{\gamma - 0}{\beta - 0} \right)$$

なので、円周角の定理の逆より、 A, B, C, O は同一円周上にある。 \square